

## 1896年陸羽地震の踏査報告の足跡をたどって\*

北海道大学 名誉教授 鏡味 洋史  
秋田大学 地方創生センター 水田 敏彦

### 1. はじめに

被害地震の際に行われる踏査報告の多くは調査行程など被害情報の収集の過程についての記載を含まない。しかし、中には調査行程を詳細に日誌風に記載しているものもあり、当時の交通事情を始め被害の少なかった道中の記載などを含め多くのことを読み取ることができる。筆者らは1894年庄内地震について、文献調査を進める中で関野貞の手書きの未定稿の踏査日誌を見出し紹介した<sup>1)</sup>。地震発生当時、日本海側への鉄道はなく、東北線の黒沢尻(現北上)から、人力車、徒歩で横手、秋田を回り酒田までの踏査行が詳細な日誌として残されている。道中の軽微な被害状況などから始まり他の被害報告には見られない多くの状況明らかにすることができた。さらに、文献調査を進める中で鶴岡市郷土資料館に『庄内大地震実見誌』と題する個人の手書きの日誌を見つけた<sup>2)</sup>。鶴岡から酒田まで徒歩で日帰りする紀行文であり集落ごとの被害の様子が克明に描かれており、他の被害報告や被害統計に表れない内容を多く明らかにすることができた。

庄内地震の2年後の1896年陸羽地震については日誌風に綴った踏査報告は見つかっていないが、本論では各種の踏査報告を読み直すとともに当時の新聞記事等を参照し各調査者の踏査の足跡を明らかにすることを試みる。

### 2. 1896年陸羽地震の調査報告

1896年陸羽地震の調査報告書は中央气象台の報告と震災予防調査会報告がある。他に同一著者による各学会誌での報告があるがいずれも震災予防調査会報告の再録である。中央气象台の報告は地震に関する年次報告の一節として報告されている<sup>3)</sup>。被害報告の後半に、現地踏査を行った中央气象台員の池上技手の復命書よりの摘録を掲載している。震災予防調査会報告第11号に陸羽地震に関する一連の報告が掲載されている。震災予防調査会囑託の当時大学院学生であった山崎直方の報告『陸羽地震調査概報』<sup>4)</sup>では地質学の立場から報告しており、特に断層の探索について述べている。農商務技師の巨智部忠承の『秋田県震災概査報告』<sup>5)</sup>は秋田県側の調査概要を報告している。中村達太郎の『陸羽地震震災一巡回報告』<sup>6)</sup>は建築物の被害について報告している。曾祢達蔵の『岩手秋田両県下家屋調査報告』<sup>7)</sup>では被災地域の家屋構造との関係から建築物被害の詳細について論じている。

### 3. 地震発生当時の時代背景

陸羽地震発生当時の時代背景の概略を述べておく。陸羽地震は地震発生の2か月前の6月に

\*Tracing for footprints on reconnaissance reports of 1896 Rikuu earthquake by Hiroshi Kagami and Toshihiko Mizuta

は明治三陸地震津波があり、その影響が継続する中で発生している。また、2年前の1894年庄内地震の記憶の新しい中での地震である。

当時の鉄道は上野から青森まで1891年9月に開通した私鉄の日本鉄道があり、青森から秋田方へは、国鉄奥羽北線が1895年10月に碓ヶ関まで達したものの秋田県には到達していなかった。奥羽南線の福島・米沢間の開通は地震後の1899年であり、山形へも達していなかった<sup>8)</sup>。従って東京から秋田県側に入るためには黒沢尻（現北上）で下車し平和街道沿いに平鹿郡横手に入るか、盛岡で下車し雫石を経由し仙岩峠を越え仙北郡生保内に入るルートであった。地震当時の上野青森間の直通列車は一日往復便しかなく下りは上野14時30分発、黒沢尻に翌朝7時10分、盛岡8時30分着であった<sup>9)</sup>。

#### 4. 各報告から読み解く踏査行程

各報告を読み解き調査行程を明らかにする。

##### 4.1 中央气象台員池上技員の報告<sup>3)</sup>

中央气象台の年次報告の陸羽地震の項の後半に『本台員池上技手の巡見したる陸中国稗貫和賀両郡及羽後国仙北郡内に於ける震災の概況を復命書中より摘録して左に記載す』とあり、被害概要が踏査行程に沿って記載されており、多くの集落、地名を追うことができる。踏査ルートを図1に示す。

調査は稗貫郡花巻町から始まり低湿地に広がる市街地の被害状況を述べている。次いで、秋田方面に向かう順路として、平和街道方面は山岳の崩壊が著しいことから中山街道に従い黒沢川を遡り大杉沢岳を越え和賀谷に至る順路を選んでいる。花巻を辞し黒沢川に沿って鉛村、桂沢を経て、大杉沢嶽を越え西和賀郡大志田村に至り、ここより大荒沢、八ツ又、川舟街道、を裁断する断層線を観察している。9月3日川舟駅に一泊している。翌日は川舟より猿橋、太田に至り、新町、大野村に至り、黒森峠を越え羽後国仙北郡六郷町に入っている。これより先、宿泊地の記載はないが、訪問地が詳細に記載されている。六郷西根、六郷町、郡役所、畑屋、千屋村、浪花、黒沢、太田、椿村、白岩、生保内村、角館、国見、横沢、六郷町、金沢西根、杉沢川、角間川街道、三本柳、横手町、浅舞、沼館、角間川、大曲となっている。六郷町に引き返していることから、六郷町に宿泊し生保内まで往復しその後大曲町に到達したものと推測される。帰路についての記載はない。

##### 4.2 曾祢達蔵の報告<sup>7)</sup>

曾祢達蔵の被害建物の実況調査報告では、冒頭に調査地が述べられているが踏査行程については言及されていない。調査地は秋田県横手、黒川、角間川、六郷、刈和野、荒川、秋田等、岩手県川尻、里川口、花巻等としている。

##### 4.3 中村達太郎の報告<sup>6)</sup>

中村達太郎の建築物被害の報告の中では、冒頭で9月2日東京発、黒沢尻、川尻、横手、大曲、六郷、角館、生保内、を巡回し、盛岡から14日帰京したことを述べている。

##### 4.4 山崎直方の報告<sup>4)</sup>

山崎の地質、断層調査報告では、9月尽日（30日）調査終了帰京したことが冒頭に述べられているのみで調査行程についての記載は一切ない。

#### 4.5 巨智部忠承の報告<sup>5)</sup>

巨智部忠承の報告は秋田県庁と震災救済会の要請により行った調査で他の調査に比べ遅く5旬(50日)後に出発したもので9日間の調査としている。同行者は農商務技師の巨智部忠承、秋田県技師の熊野義輔、秋田県震災救済会評議員の三浦盛徳、秋田魁新報記者 山方石之助である。調査範囲は山崎の踏査範囲との重複を避け秋田県側の雄物川流域を対象とするが比較のため最烈震部の仙北郡千屋等から調査を始めている。調査行程として、秋田、大曲、角館、仙北郡白岩、豊岡、長信太、千屋、六郷、金沢、横手、醍醐、明沢岳、増田、湯沢、駒形、湯沢、駒形、湯沢、貝沢、柳田、角間川、大曲、秋田が記載されているが宿泊地などの日程は不明である。ルートを図2に示す。柳田、角間川間、大曲、秋田間は雄物川を舟で移動している。

### 5. 新聞記事等に取り上げられた調査者の動向

当時の新聞記事に取り上げられた各方面から派遣された調査者の動向を探ってみる。参照した新聞は岩手の地方紙として『巖手公報』、全国紙として『朝日新聞』、『報知新聞』、『東京日日新聞』、『時事新報』のマイクロフィルムを参照した。秋田の地方紙については現存するものが見つからなかったため、地震調査研究本部のデータベース『新聞切抜帳』<sup>10)</sup>を参照し、『秋田魁新報』、『秋田日日新報』の記事を参照した。以下に各調査者の動向を記した記事を日付順に記す。日付の《 》内は昨日、本日などの記載から推定した日付を示す。【 】内は掲載の新聞名、掲載日、丸数字で掲載紙面を示す。

#### ◎池上技手 中央气象台

昨日午後2時上野発【報知 9/2②】、昨日《1日》午後2時30分発の汽車にて技手2名秋田へ向出発【朝日 9/2①】

#### ◎曾禰、中村、山崎

午後3時《2日》上野発、秋田へ向け【日日 9/3③】

#### ◎山崎直方

明日《3日》午後2時雫石方面へ【巖手 9/4①】、3日午後雫石方面に向け出発【魁 9/8、朝日 9/6①】、5日御明神村橋場、荒川出水のため検疫所に一泊【巖手 9/9②】、6日減水に乗じて同川を渡り小柳沢安栖上野を実検し雫石へ、雫石泊【巖手 9/9②】、翌日《7日》山伏峠を経て西和賀太田地方【巖手 9/9②】、15日生保内村某旅館に特派員が訪問【魁 9/20】、17日田沢湖巡検、角館から六郷へ《予定》【魁 9/20】、24・25日平鹿郡へ《予定》【魁 9/20】、一昨日《28日》秋田より盛岡県庁、尋常中学校で演説【巖手 9/30②】、30日帰京【読売 10/2】

官報に掲載の 山崎直方からの電報

9月7日 中央山脈付近甚し仙岩峠山崩多し路総て破壊温泉皆止る、9月11日 断層線発見す陸中西和賀郡ワカタテ川舟特に善く現る、9月15日 川舟断層の外尚ほ一線あり、六郷の東一里・・・

#### ◎巨智部忠承

昨日《18日》当市【秋田市】震災救済会【魁 10/20】、昨日《21日》午後4時より県会議事堂にて地震談【魁 10/22】、同上の講演内容【魁 10/28】、昨日《30日》視察を終り大曲へ、小宴、一両日滞在【魁 10/31】、昨日《11月2日》大曲発雄物川を舟にて南下来秋【秋日日 11/3】、昨

日《11月2日》秋田尋常師範学校で講演会【魁 11/03】

## 6. 各調査の踏査行程の比較

4章で示した各調査者の足跡を5章で示した新聞記事で補い表1に示す踏査行程の一覧表を作成した。括弧（ ）書は推定したものである。電は官報に記載の電報の発信である。

表1 踏査行程の一覧表

| 月日    | 池上   | 曾祢   | 中村    | 山崎     | 月日     | 巨智部   |
|-------|------|------|-------|--------|--------|-------|
| 8月31日 |      |      |       |        |        |       |
| 9月1日  | 上野発  |      |       |        |        |       |
| 9月2日  | 花巻着  | 上野発  | 上野発   | 上野発    |        |       |
| 9月3日  | 川舟泊  |      | (黒沢尻) | 雫石へ    |        |       |
| 9月4日  | (六郷) |      |       |        |        |       |
| 9月5日  | (六郷) |      |       | 御明神泊   |        |       |
| 9月6日  | (大曲) |      |       | 雫石泊電   |        |       |
| 9月7日  |      |      |       | 太田     |        |       |
| 9月8日  |      |      |       |        |        |       |
| 9月9日  |      |      |       |        |        |       |
| 9月10日 |      |      |       | 川舟断層電  |        |       |
| 9月11日 |      |      |       |        |        |       |
| 9月12日 |      |      |       |        |        |       |
| 9月13日 |      |      | (盛岡発) |        |        |       |
| 9月14日 |      | (帰京) | 帰京    | 六郷電    |        |       |
| 9月15日 |      |      |       | 生保内泊   |        |       |
| 9月16日 |      |      |       |        |        |       |
| 9月17日 |      |      |       | 田沢湖    |        |       |
| 9月18日 |      |      |       | 角館、六郷  | 10月18日 | 秋田着   |
| 9月19日 |      |      |       |        | 10月19日 |       |
| 9月20日 |      |      |       |        | 10月20日 |       |
| 9月21日 |      |      |       |        | 10月21日 |       |
| 9月22日 |      |      |       |        | 10月22日 | 秋田講演会 |
| 9月23日 |      |      |       |        | 10月23日 |       |
| 9月24日 |      |      |       | 平鹿郡    | 10月24日 |       |
| 9月25日 |      |      |       | 平鹿郡    | 10月25日 |       |
| 9月26日 |      |      |       |        | 10月26日 |       |
| 9月27日 |      |      |       |        | 10月27日 |       |
| 9月28日 |      |      |       | 盛岡、講演会 | 10月28日 |       |
| 9月29日 |      |      |       |        | 10月29日 |       |
| 9月30日 |      |      |       | 帰京     | 10月30日 | 大曲小宴  |
|       |      |      |       |        | 10月31日 | 大曲    |
|       |      |      |       |        | 11月1日  | 大曲    |
|       |      |      |       |        | 11月2日  | 秋田講演会 |



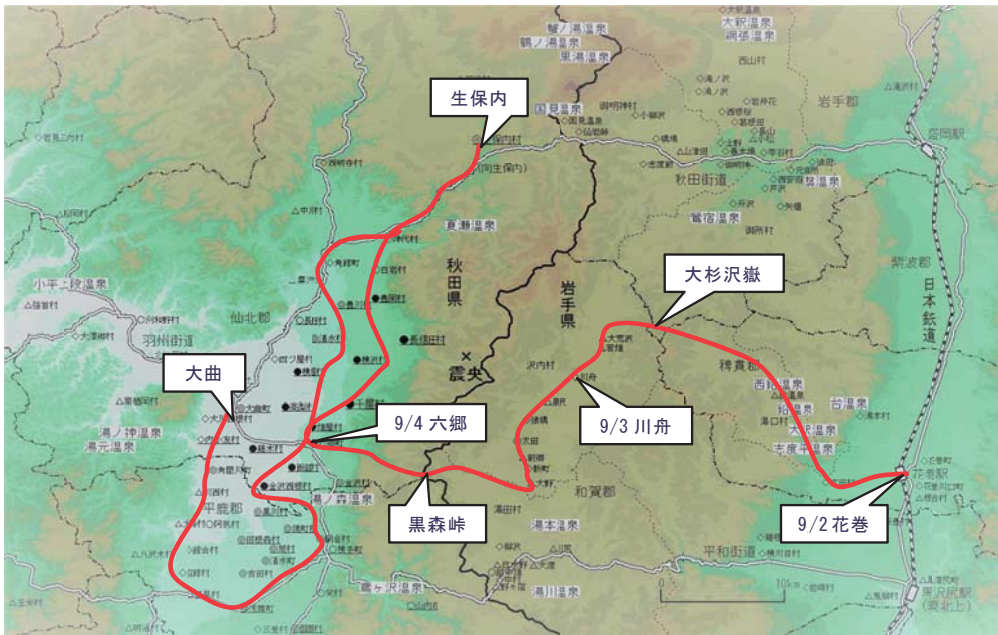


図1 池上の踏査行程



図2 巨智部の踏査行程

地震の発生は8月31日17時過ぎであり、翌9月1日の午後2時半の列車で中央気象台の池上は現地に向かっており、曾祢、中村、山崎は翌々日の同列車であり、迅速な対応であったことがわかる。池上の帰京については明らかにできなかったが1週間程度の調査と推定される。曾祢、中村はともに建築物の被害調査であり調査地も重なることから、おそらく同じ行程で調査したものと推察される。山崎の調査は地質学の立場から断層の探索を丹念に行っており1か月に及んでいる。踏査の行程はすべて明らかにできないが断片的に新聞記事で追うことができた。巨智部忠承の調査は前述のように秋田県庁、震災救済会の要請によるもので、新聞記事によれば、巨智部忠承は北秋（田）の某無煙炭山踏査のついでに秋田に到着したとしている。

調査結果の現地報告会は山崎、巨智部が盛岡、秋田で行っている。池上、曾祢、中村については新聞記事に講演会の記載はない。

## 7. まとめ

1896年陸羽地震の被害調査報告を再読し著者らの踏査行の足跡をたどることを試みた。次いで踏査の行程を当時の新聞記事などで補い、比較して一覧表にまとめた。足跡をたどることで明らかにできたことは少なくないが、さらに特筆すべき項目として以下があげられる。

- 1) 中央気象台の調査は地震発生の翌日発の夜行列車で現地しているなど、調査行の立ち上がりは早い。
- 2) この地震の断層の発見は重要な意味を持っており、山崎は踏査を1か月程度かけ、岩手県側から秋田県側に向け丹念に行っている。
- 3) 岩手県側から秋田県側への山越えの様子、大曲秋田間の舟運の利用など、当時の交通事情を垣間見ることができる。

## 参考文献

- 1) 鏡味洋史・水田敏彦：1894年庄内地震の文献調査 2) 関野貞の「両羽庄内震災調査日誌」、日本建築学会大会学術講演梗概集B構造II, 1047-1048, 2010.
- 2) 水田敏彦・鏡味洋史：1894年庄内地震の文献調査 3) 「庄内大地震実見録」に記された鶴岡―酒田間の被害、日本建築学会大会学術講演梗概集B構造II, 267-268, 2013.
- 3) 中央気象台：明治29年地震報告, 48-62, 1900.
- 4) 山崎直方：陸羽地震調査概報：震災予防調査会報告, 11, 84-91, 1896.
- 5) 巨智部忠承：秋田県震災概査報告, 震災予防調査会報告, 11, 75-83, 1896.
- 6) 中村達太郎：陸羽震災巡回報告, 震災予防調査会報告, 11, 84-91, 1896.
- 7) 曾祢達蔵：岩手秋田両県震害家屋調査報告, 震災予防調査会報告, 11, 92-104, 1896.
- 8) 鉄道百年略史編さん委員会：鉄道百年略史, 鉄道図書刊行会, 463pp, 1977.
- 9) 三宅俊彦：東北・常磐線120年の歩み, グランプリ出版, 232pp, 2004.
- 10) 地震調査研究推進本部：明治大正昭和戦前期新聞切抜帳, <http://www.herpl.adep.or.jp/>